

令和3年度 スポーツ庁委託事業

地域運動部活動推進事業

休日の部活動の段階的な地域移行に  
関する実践研究

羽島市 成果報告書

## 羽島市の部活動の概要

### ○羽島市立学校の部活動の概要について

岐阜県羽島市は人口 67541 人、面積は 53.66km<sup>2</sup> であり、人口密度は 1258.7 人/km<sup>2</sup> である。県内南部に位置し、東海道新幹線の岐阜羽島駅、名神高速道路の岐阜羽島 I C を有しており、近隣には岐阜市・名古屋市などの都市がある。

市立学校は 13 校（小学校 8 校、中学校 4 校、義務教育学校 1 校）であり、学校部活動を実施しているのは、中学校 4 校と義務教育学校 1 校の計 5 校である。

中学校・義務教育学校後期課程の生徒は 1,881 名であり、学校部活動を実施している学校の生徒数及び部活動の数は下表のとおりである。

中学校・義務教育学校	生徒数	運動部活動数	文化部活動
羽島中学校	646 人	16 (12)	4
竹鼻中学校	565 人	12 (9)	4
中央中学校	405 人	10 (7)	2
中島中学校	210 人	6 (5)	1
桑原学園	53 人	3 (3)	0

※運動部活動は同一種目も男女別としている場合もあるため、カッコ内に種目数を示した。

同一市内でも、学校規模・生徒数に大きく差があり、学校による部活動数・種目数にも差が現れている。また、今後少子化により、どの学校も生徒数が減少していく見込みのため、新たな部活動を設置することは難しく、また集団競技の部活動は人数の確保が困難となり、部活動の維持の在り方が課題となっている。

令和 3 年度は、合同チームが 2 例あり、サッカー（羽島中・竹鼻中）と野球（中央中・中島中）で行われている。

## ○羽島市の総合型地域スポーツクラブ

羽島市には総合型地域スポーツクラブが3団体ある。3つのクラブは、事務局を羽島市の北部・中部・南部に置き、それぞれの地区の住民に対して積極的に啓発活動を行っている。また、それぞれの地区の中学校の運動部活動と連携を図っている。

はしまモアスポーツクラブ（北部）・・・羽島市立羽島中学校  
はしまなごみスポーツクラブ（中部）・・・羽島市立竹鼻中学校  
羽島市立中央中学校  
はしま南部スポーツ村（南部）・・・・・・羽島市立中島中学校  
羽島市立桑原学園

## ○羽島市の部活動の地域移行の方向性

令和3年度に竹鼻中学校の運動部活動を、はしまなごみスポーツクラブに移管した。このノウハウを生かすとともに、各地区・各中学校や義務教育学校の実態を踏まえ、地域移行を推進する予定である。

中学校・義務教育学校	総合型地域スポーツクラブ
羽島中学校	はしまモアスポーツクラブ
竹鼻中学校	はしまなごみスポーツクラブ
中央中学校	
中島中学校	はしま南部スポーツ村
桑原学園	

基本的には、竹鼻中学校の移行事例と同様に、それぞれの地域の総合型地域スポーツクラブに各校の部活動を移行していく方向で進めるが、学校規模の違いや、学校関係者や保護者の考え、移行先となる総合型地域スポーツクラブの意見・要望を踏まえ、実情に合った形での地域移行を進めていく必要があると考えている。

将来的には、市内の子どもたちが、自分の志向に合ったスポーツ・文化活動に取り組む場や機会を確保するとともに、その実施主体が継続的に活動を運営できるような体制を構築していきたいと考えている。

## 拠点校「竹鼻中学校」での事業実践について

### ○竹鼻中学校の部活動について

羽島市立竹鼻中学校 羽島市竹鼻町 3176 番地  
生徒数 565 名（通常学級 15、特別支援学級 2）  
職員数（常勤）40 名

竹鼻中学校は、羽島市の中心部に立地しており、中学校区内に文化施設として羽島文化センター・羽島市立図書館・羽島市民会館等があり、スポーツ施設としては羽島市柔剣道場がある。野球場・多目的グラウンド・テニスコートを有する羽島市運動公園や、サッカー場・陸上競技場として利用できる長良川多目的運動場も近隣に存在している。

16 の部活動を設けており、運動部活動が 12、文化部活動が 4 となっている。すべての部活に複数顧問を配置している。部活動加入生徒は 471 名、部活動への加入率は約 83%である。

#### ・運動部活動 合計 299 名

部活動名	部員数	部活動名	部員数
野球部	13 名	男子バスケットボール部	15 名
サッカー部	16 名	女子バスケットボール部	18 名
陸上部	40 名	男子バレーボール部	34 名
卓球部	42 名	女子バレーボール部	34 名
剣道部	16 名	男子ソフトテニス部	29 名
柔道部	13 名	女子ソフトテニス部	29 名

#### ・文化部活動 合計 172 名

部活動名	部員数	部活動名	部員数
吹奏楽部	40 名	美術部	37 名
茶華道部	18 名	パソコン科学部	77 名

校区の特徴として、卓球・柔道については、スポーツ少年団や道場が活発に活動に取り組んでおり、低年齢から競技に触れ、継続的かつ一貫した指導を受けられる体制が整っている。竹鼻中学校の卓球部・柔道部は、伝統的に県内上位の成績を収めており、東海大会・全国大会へも頻繁に出場している。

#### ○部活動の地域移行にかかわる課題

竹鼻中学校の運動部活動について、休日の活動を地域移行し、はしまなごみスポーツクラブ（以下はしまなごみ SC）が主体となって行うクラブ活動として実施する。運動部活動をクラブ活動へと移行することは、以下の4点をねらいとしている。

- ①中学校と地域が一体となって、生徒のニーズに応じたスポーツの活動充実を図ること。（顧問の人事異動に依存しない、専門性をもつ指導者による継続した指導環境の構築）
- ②中学校に地域がスポーツ活動で関わることを通し、地域の活性化を図ること。
- ③保護者の負担軽減を図ること。
- ④教員の働き方改革（休日の部活動指導時間の削減）を図ること。

#### ○地域移行（クラブ化）へ取り組む動機について

部活動を、学校ではなくクラブによる活動に移行する取り組みは、「部活動のクラブ化」として保護者の要望として始まった。部活動育成会（各部の保護者代表による組織）では、以下の要望が挙げられていた。

- ・質、量ともに充実した活動できる環境を生徒に提供できること。
- ・専門性の高い顧問（教員）が異動しても、活動を維持できること。
- ・部活動運営にかかわる保護者の負担を軽減すること。

休日の活動を、学校が運営する部活動から、スポーツクラブなどの外部団体による活動に移行することにより、これらの課題を解決できると考え、部活動育成会の代表者が市内外のスポーツクラブの視察を進めていた。

## ○地域移行（クラブ化）の決定から実施までの経緯

平成 31 年度（令和元年度）に、当時の学校長が部活動育成会（各部の保護者代表による会議）からの要望を受け、学校としてクラブ化を進めることを決定した。クラブ化の実施時期を令和 3 年 4 月と定め、学校・保護者が協議を進めてきた。

令和元年度は、学校に「部活動改善委員会」を立ち上げ、学校・部活動育成会・PTA 役員で協議を行うとともに、市内の総合型地域スポーツクラブ（はしまなごみ SC）も交えて意見交換を行ってきた。部活動改善委員会では、保護者の負担軽減するために部活動にかかわる保護者組織の再編、地域が支える部活動としてのクラブ化という方向性などが定まっていた。

令和 2 年度になり、部活動改善委員会を、「竹鼻中学校クラブ化推進会議」とし、学校・保護者・はしまなごみ SC に加え、羽島市教育委員会スポーツ推進課、羽島市スポーツ協会、岐阜県清流の国推進部 地域スポーツ課にも協力を求め、積極的にクラブ化への協議・協力依頼を進めた。

はしまなごみ SC の理事長が、10 年以上竹鼻中学校の陸上部の社会人指導者として活動を支えてきており、また、7 年前から陸上部の部員は、はしまなごみ SC の陸上クラブに所属し、休日の活動を行ってきたという実践例があった。また、スポーツ庁より、地域で部活動を支える事業を推進していくという方針が出された。

これらを踏まえ、総合型地域スポーツクラブである「はしまなごみスポーツクラブ」が、竹鼻中学校の運動部活動の休日の活動の地域移行を受け入れると決断することとなった。

行政に協力を求めた意図は、クラブ化の準備段階の協議から加わってもらうことにより、クラブ化の理念やクラブ化への課題を共有することができるからである。このことにより、スムーズな課題解決につながった例もある。例えば、学校施設の利用にあたり、クラブ化することで学校ではない団体が利用することになるため、利用料が発生することになるという課題が協議により浮き彫りになることで、減免措置の対象を検討することができた。

竹鼻中学校の保護者や、部活動に校長が認める社会人指導者として協力してもらっている方々に対して、クラブ化の理念や意図、活動の実施方法、想定される必要経費などについて説明会を行い、クラブ化に向けて学校・保護者・SC・社会人指導者がそれぞれ準備を進めていった。

各部の顧問は保護者・社会人指導者と協力して各クラブの規約・内規を作成した。また、活動する上で必要な書類をはしまなごみ SC が活動ハンドブックとしてまとめた。各部の社会人指導者には、はしまなごみ SC の指導者として登録してもらえるよう働きかけ、クラブの指導者を確保することができた。

令和 2 年 12 月の入学説明会では、小学 6 年生児童と保護者に対し、クラブ化について説明した。また、中学 1 年・2 年に対しては、はしまなごみ SC への加入希望調査を実施した。

#### ※ 部活動運営にかかわる保護者の負担について

竹鼻中学校では、以前から休日の部活動の際に、2 人の保護者が当番制で参加することが、部活動育成会の規約として定められていた。保護者の役割は、事故・怪我の際の緊急対応の補助である。

休日に当番に参加できない保護者の代理当番や、部員数が少ない部活動で当番の頻度が多くなることなど、保護者当番に対して負担を感じる声が多くあった。また、各部の保護者役員（代表・会計担当など）が参加する会議も多く、会議の精選を求める声もあった。

これらを受け、部活動育成会本部から、部活動ではなくクラブとして実施することで保護者負担を軽減してほしいという要望につながっている。

○休日の地域部活動の運営主体（はしまなごみ SC）について

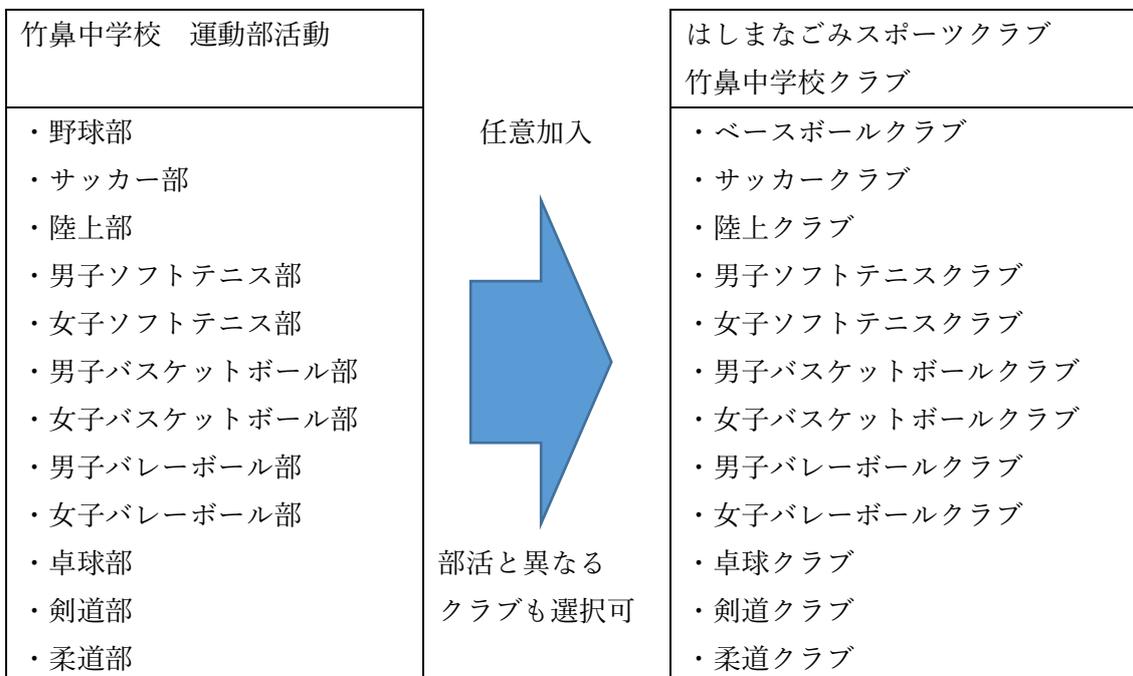
竹鼻中学校の休日の活動は、はしまなごみ SC により実施されている。

はしまなごみ SC は、平成 24 年度に設立された総合型地域スポーツクラブであり、主に羽島市の中部の住民（竹鼻中学校区・中央中学校区）に対してスポーツ活動を展開している。

事業内容としては、グラウンドゴルフやボウリングなどのスポーツ大会事業、健康体操や親子ヨガなどの通年継続教室事業、ウォーキングやファミリースポーツ広場などのイベント事業などを行っており、令和 3 年度より竹鼻中学校クラブが加わることとなった。

会員数は約 380 名（一般会員約 130 名、中学校クラブ会員約 250 名）である。

竹鼻中学校の運動部活動に対応した竹鼻中学校クラブを設け、任意加入として、はしまなごみ SC の各種目クラブへの加入を勧めている。また、多様なニーズに応えるために、学校の部活動とは異なる種目のクラブや、複数のクラブに所属することも可能としている。



## ○休日のクラブ活動に関わる保護者負担について

休日のクラブ活動を行うために必要な保護者負担額は、年会費 2,000 円、参加料（3 か月）1,000 円、年間保険料 800 円と、クラブごとの必要経費（クラブ費や道具代・大会参加料など）となっている。

種目に関わらず、活動を行う生徒の共通の負担額を、昨年度までの学校部活動と比較すると以下の通りとなっている。

	昨年度	今年度	差
部活動協力金（学校徴収金）	5,000 円	100 円	- 4,900 円
保険料（スポーツ安全保険）	800 円	800 円	—
なごみ SC 年会費	—	2,000 円	+ 2,000 円
なごみ SC 参加料（12 か月）	—	4,000 円	+ 4,000 円
合計	5,800 円	6,900 円	+ 1,100 円

部活動協力金は、羽島市からの部活動補助金等も含め、学校・PTA で協議し、部活動を円滑に運営するための費用として用いている。

はしまなごみ SC は、クラブ加入者からの年会費・参加料や、賛助企業・団体からの賛助金から、指導者謝金やクラブ運営費などを支払っている。

保護者の負担額は、上記の共通負担額に加えて、各クラブの保護者で協議・決定して集めているクラブ費（昨年度までの部費にあたる）や、ユニフォームや個人の道具などの物品代などとなっている。

保護者当番については、昨年度までの複数人での当番は必須ではなくなった。保護者当番の在り方については、各クラブで定めることとしているため、保護者同士の交流の観点から複数人での当番を継続しているクラブもある一方で、保護者当番をなくしたクラブもある。負担軽減にはつながったが、一部のクラブにとどまっているため、今後の課題となっている。

### ○休日のクラブでの活動内容（日数や時間）について

活動日数については、1か月の上限を8回としている。また、第3日曜日は家庭の日として位置づけ、原則活動を休みにするようにしている。（大会等と重なる場合は、代替日を設ける）また、活動時間は1日3時間程度としている。

今年度の月ごとの全クラブの平均活動日数は以下の通りであった。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
7.1回	7.3回	4.1回	7.1回	4.1回	0.5回	5.9回	7.2回	6.4回

※6月、8月、9月、10月については、まん延防止等重点措置、緊急事態宣言の対象となり、部活動の活動制限と同様の活動制限を行った。

### ○休日のクラブ活動での指導者と確保の方法について

クラブ化の実施にあたり、各クラブの指導者を、はしまなごみ SC 単独で確保することは困難であるため、これまで学校の部活動で指導にあっていた社会人指導者にクラブ化の理念や意図、指導者の役割や謝金について説明し、はしまなごみ SC の指導者として登録した。

今年度、指導者に欠員が出た際には、はしまなごみ SC から羽島市スポーツ協会や羽島市の競技団体（連盟・協会）に指導者派遣を依頼し、新たな指導者を確保することができた。また、岐阜県スポーツ協会にも、指導者を紹介してもらえよう依頼し、指導者確保の体制を整えている。

今年度、はしまなごみ SC で休日の活動の指導にあたった指導者は30名おり、指導者の概要については以下のとおりである。

#### ・顧問（教員の兼職兼業）を指導者登録 5名

種目	性別	年代	競技歴	指導歴	資格等
サッカー	男性	30代	16年	12年	審判4級
柔道	男性	30代	29年	10年	指導者C級 審判C級
剣道	男性	40代	35年	20年	剣道二段
バスケットボール	男性	40代	15年	21年	JBA公認E1級コーチ
バスケットボール	男性	20代	12年	4年	

・部活動の社会人指導者を指導者登録 21名

種目	性別	年代	競技歴	指導歴	資格等
陸上競技	男性	70代以上	45年	40年	日本陸上競技連盟公認審判A級審判
陸上競技	男性	70代以上	20年	45年	
陸上競技	女性	30代	22年	8年	岐阜陸上競技協会審判B級
バレーボール	男性	60代	15年	22年	日本スポーツ協会バレーボールコーチ2
バレーボール	女性	50代	20年	15年	岐阜バレーボール協会公認B級審判
バレーボール	男性	20代	10年	3年	
バスケットボール	男性	40代	20年	12年	JBA公認D級コーチ JBA公認E級審判
卓球	男性	60代	35年	13年	公認審判員証
卓球	男性	50代	20年	15年	スポーツ少年団登録指導者
剣道	女性	40代	10年	17年	剣道二段
ソフトテニス	男性	40代	20年	15年	ソフトテニス技術等級2級
ソフトテニス	男性	40代	12年	13年	ソフトテニスジュニアコーチ
柔道	男性	50代	31年	15年	全柔連指導者資格Cライセンス
柔道	男性	40代	30年	13年	指導者Bライセンス 審判Cライセンス
柔道	男性	20代	15年	8年	柔道二段
サッカー	男性	40代	10年	1年	公認D級コーチ
サッカー	男性	40代	25年	5年	JFAスポーツマネージャー JFA公認指導者C級 JFA公認キッズリーダー
軟式野球	男性	40代	30年	13年	なし
軟式野球	男性	50代	30年	10年	なし
軟式野球	男性	40代	12年	2年	なし
軟式野球	男性	30代	27年	1年	なし

・スポーツ協会や教育委員会、保護者からの紹介による確保 4名

種目	性別	年代	競技歴	指導歴	資格等
剣道	男性	30代	30年	12年	剣道四段
ソフトテニス	男性	30代	8年	1年	
ソフトテニス	男性	20代	10年	1年	
バスケットボール	男性	40代	8年	2年	

### ○休日のクラブ活動の活動場所について

はしまなごみ SC としての活動に移行したが、昨年度まで部活動を行っていた場所での活動を継続している。基本的には竹鼻中学校の学校施設（グラウンド・体育館・武道場）を利用している。陸上部が、400mトラックや砂場が整備されている長良川多目的運動場を、ソフトテニス部の一部の活動日で、オムニコートがある FUKUJU スポーツパークを利用しているが、昨年度から継続して利用している施設である。

学校施設を利用するにあたり、クラブ化により学校ではない団体の利用となるため、以前の規約では施設利用料が発生することとなる。令和2年度のクラブ化推進会議において、学校・クラブ・行政が協議し、小中学生へのスポーツ活動の推進の観点で本事業を捉えることにより、減免措置(対象)の見直しを行った。

学校施設の利用料を全額減免する措置を、当該校の利用に加え、小中学生が10人以上在籍する団体へと見直しを行った。これにより、はしまなごみ SC として学校施設を利用する際の金銭的負担を軽減することができている。

また、今年度は本事業の委託金により、一般公共施設であるテニスコートの利用料支払いを行っており、保護者負担の軽減を図っている。

課題としては、学校施設の利用の際に物品を破損した際の対応が挙げられる。破損届を作成し、原則は破損した者が修理等を行うこととしているが、今年度は破損例がなかった。実際に物損等が起きた場合は、はしまなごみ SC に加入する際に同時に加入するスポーツ安全保険の損害賠償保険において、対応することとしている。

## ○部活動顧問とクラブ指導者との連携について

部活動顧問とクラブ指導者とが、生徒の活動の内容や様子について情報交換をするため、部活動・クラブ活動引継ぎ用紙を活用している。平日と休日のそれぞれの活動内容や生徒の様子について、平日は部活動顧問、休日はクラブ指導者が記入し、代表生徒を通して互いに確認しあう。気になることがあれば、連絡を取って、確認する。

大会の選手選考など協議が必要な際には、引継ぎ用紙を用いるだけでなく、電話や対面で話すなどして互いに合意が得られるよう配慮している。実際に、今年度の夏の中体連の大会(中学総体)では、選手選考についてトラブルは起きず、大会に臨むことができた。

## 関係者への意識調査の概要

○はしまなごみ SC に加入している生徒への意識調査の概要

・生徒へ行った質問内容は以下の通り。一部2年生のみの質問項目がある。

問1	休日のはしまなごみ SC での活動について、あなたは満足していますか。(1・2年生)
問2	休日のクラブ活動によって、あなたの体力や技能が向上していると感じますか。(1・2年生)
問3	休日のクラブ活動によって、あなたは仲間との絆を深めることができましたか。(1・2年生)
問4	休日のクラブ活動量(日数や時間)について、あなたはどう思いますか。(1・2年生)
問4-2	休日が月8日としたときに、休日の活動日数は何日が適切だと思いますか。(1・2年生)
問5	休日のクラブ活動での活動の内容は、昨年度の部活動と同じように活動できていますか。(2年生のみ)
問6	休日の活動の指導者が部活動顧問の先生からクラブ指導者が変わって、戸惑ったことや困ったことはありますか。(2年生のみ)

問1は83%、問2は91%、問3は96%が肯定的な回答であり、休日のクラブの活動は生徒に受け入れられていると考えることができる。

問4で、活動量が多いと感じている生徒は31%、少ないと感じている生徒は20%であった。問4-2では月6日～8日の回答が70%を占めており、先に示した今年度の平均活動日数について、生徒の大きな負担となっているとは考えにくい。竹鼻中学校の平日部活動の実施状況は、夏季において週平均2回、冬季は下校時間の繰り上げにより平日部活動を実施できない日が続く現状である。よって、生徒にとっては、冬季は休日のみスポーツ活動を行っていることになる。しかし、3割の生徒は活動量が多いと感じていることから、適正な活動量については今後検討していく必要がある。

問5は78%、問6は92%が肯定的な回答であった。これまで部活動の指導に関わっていた社会人指導者がクラブの指導者になったことで、生徒にとっても指導の連続性があり、スムーズな地域移行ができたと考えられる。

○中学 1 年生の保護者への意識調査の概要

中学 1 年生の保護者へ行った質問内容は以下の通り

問 1	お子さんの休日のクラブ活動量（日数や時間）について、保護者としてどう思いますか。
問 1-2	休日が月 8 日としたときに、休日の活動日数は何日が適切だと思いますか。
問 2	お子さんは、休日のクラブ活動に満足していると思われませんか。
問 3	休日のクラブ活動において、見守り当番などの保護者負担についてどう思いますか。
問 4	指導者に支払われる謝金は、1 回 1,000 円としています。この金額は適切だと思いますか。
問 5	指導者への謝金やクラブ運営費（消耗品・人件費等）のために、年会費・参加料で年間 6,000 円（月 500 円）を徴収しています。この負担額は適切だと思いますか。
問 6	休日のはしまなごみ SC での活動について、あなたは満足していますか。

問 1 で、活動量が多いと感じている保護者は 26%、少ないと感じている保護者は 21%であった。問 1-2 では月 6 日～8 日の回答が 83%を占めており、先に示した今年度の平均活動日数については、コロナ禍に伴う制限がなければ、概ね保護者のニーズに答えられていると考えられる。

問 2 では、69%が肯定的な回答であり、生徒自身の回答より若干低くなった。

問 3 では、39%が負担が多い、59%は適正であるとの回答であった。所属するクラブによって保護者当番の頻度や役割が異なったり、クラブの保護者役員の負担感が大きかったりすることが浮き彫りになった。クラブ運営にどのように保護者が関わっていくか、検討し、適正な関わり方にするかを模索する必要がある。

問 4 では、適切との回答が 63%、少ないとの回答が 30%であった。また、問 5 では適切との回答が 73%、多いとの回答が 17%であった。保護者負担については概ね受け入れられていると考えられる。一方で、謝金の金額が少ないとの回答が 30%であり、現状の保護者負担額を維持して指導者への謝金を増額するこ

とが課題となる。

問6では、肯定的な回答が56%であり、生徒の満足度と比べて保護者の満足度は低くなっている。保護者が感じている負担や課題について分析し、改善に向けた方策を模索する必要がある。

○中学 2 年生の保護者への意識調査の概要

・ 中学 2 年生の保護者へ行った質問内容は以下の通り

問 1	お子さんの休日のクラブでの活動の内容は、昨年度の部活動と同じように活動できていると感じますか。
問 2	お子さんの休日のクラブ活動量（日数や時間）について、あなたはどのように思いますか。
問 2-2	休日が月 2 日としたときに、休日の活動日数は何日が適切だと思いますか。
問 3	休日の活動の指導者が部活動顧問からクラブ指導者になりましたが、お子さんへの指導を安心して任せることができますか。
問 4	お子さんは、休日のクラブ活動に満足していると思われませんか。
問 5	休日がクラブでの活動となり、見守り当番などの保護者負担はどうなりましたか。
問 6	指導者に支払われる謝金は、1 回 1,000 円としています。この金額は適切だと思いますか。
問 7	指導者への謝金やクラブ運営費（消耗品・人件費等）のために、年会費・参加料で年間 6,000 円（月 500 円）を徴収しています。この負担額は適切だと思いますか。
問 8	休日のはしまなごみ SC での活動について、あなたは満足していますか。
問 9	クラブ化していない学校では、部活動の指導のため休日に教員が出勤する必要があります。このことについて、どう考えますか。考えたことをお答えください。

問 1 では、71%が肯定的な回答であった。否定的な意見には、コロナ禍により活動量（回数）が制限されたことが多く挙げられているため、活動内容そのものは受け入れられており、部活動からクラブへと移行できたと考えられる。

問 2 で、活動量が多いと感じている保護者は 19%、少ないと感じている保護者は 17%であった。問 2-2 では月 6 日～8 日の回答が 84%を占めており、1 年生の保護者同様に、概ね保護者のニーズに応えられていると考えられる。

問 3 では、81%が肯定的な回答であり、生徒の回答 92%と比べると若干低いものの、多くの保護者は指導体制に安心していていると考えられる。また問 4 では、

79%が肯定的な回答であり、生徒自身の回答とほぼ同等であった。

問5では、32%が負担が少なくなったとする一方、32%は負担が多くなったと回答している。負担を軽減できたクラブの方策を集約し、他のクラブに適用できるかどうか分析するなど、クラブの実態に応じた負担軽減を模索する必要がある。

問6では、適切との回答が62%、少ないとの回答が33%であった。また、問7では適切との回答が73%、多いとの回答が24%であった。1年生の保護者とほぼ同様の割合となっている。

問8では、肯定的な回答が68%であり、1年生の保護者より満足度が高くなっている。昨年の部活動と同様の活動が行えていることや、保護者当番などの負担軽減ができたクラブがあることなどが要因と考えられ、クラブ化が大きなトラブルなく進められていると捉えることができる。

○運動部活動顧問への意識調査の概要

- ・運動部活動顧問へ行った質問内容は以下の通り

問 1	休日の部活動がクラブでの活動となり、あなたは負担が減ったと感じますか。
問 2	クラブ指導者との連携について、どう感じていますか。
問 3	休日の活動がはしまなごみ SC での活動になったことについて、あなたは満足していますか。
問 4	休日の部活動をクラブ化（総合型地域スポーツクラブへの移管）している取組について、今後他の地域・学校においても推進すべきだと感じますか。
問 5	クラブ化によりあなたの月の時間外勤務は約何時間削減されましたか。 ※兼職兼業でクラブの指導にあたった時間は、時間外勤務に含まれません。

問 1 は 85%、問 2 は 90%、問 3 は 100%、問 4 は 100%が肯定的な回答であった。竹鼻中学校の運動部活動をクラブ化した取り組みについて、顧問は非常に肯定的に捉えている。また、全ての顧問が他の地域・学校でも推進すべきと答えていることから、本事業については教員に受け入れられる方式で地域移行ができた事例として考えることができる。

問 5 では、回答を平均すると、13.3 時間の削減となった。本事業により、休日の時間外勤務を大きく削減し、教員の働き方改革にもつなげられたと考えることができる。

○はしまなごみ SC のクラブ指導者への意識調査の概要

・クラブ指導者へ行った質問内容は以下の通り

問 1	生徒と人間関係を築くことについて、難しさを感じますか。
問 2	部活動顧問との連携について、どう感じていますか。
問 3	保護者との連携について、どう感じていますか。
問 4	あなたの指導するクラブの休日の活動量（日数や時間）について、どう思いますか。
問 4-2	休日が月 8 日としたときに、休日の活動日数は何日が適切だと思いますか。
問 5	指導者に支払われる謝金は、1 回 1,000 円としています。この金額は適切だと思いますか。
問 6	休日のはしまなごみ SC での活動について、あなたは満足していますか。
問 7	今年度 4 月より竹鼻中学校の休日の運動部活動が、はしまなごみ SC による活動となりました（クラブ化）。このことについて、どう考えますか。
問 8	このような取組（クラブ化）を、他の地域・学校において推進していくことについて、どう考えますか。

問 1 は 67%、問 2 も 67%、問 3 は 83%が肯定的な回答であった。保護者との連携は良好な一方、生徒との関係、顧問との連携が今後の課題となっている。

問 4 で、活動量が少ないと感じている指導者は 30%であった。問 4-2 では月 6 日～8 日の回答が 92%を占めており、特に月 8 日との回答が 38%となっていた。生徒の 30%が多いと感じていることを踏まえた、適正な活動量でクラブ活動が実施されるようにする必要がある。

問 5 では、少ないとの回答が 58%となった。保護者の負担感も大きい中で、謝金額を増額するためには、保護者負担以外の財源を確保する必要がある。

問 6 は 71%が肯定的な回答となっており、指導者にとってもクラブ化は受け入れられていると考えられる。

問 7 については、良いが 54%、どちらともいえないが 46%、良くないが 0%となった。また問 8 は、良いが 67%、どちらともいえないが 29%、良くないが 4%となった。指導者からは、クラブ化によって生徒の目標や目的に応じた活動を行いやすくなったとの意見が多く、クラブ化のメリットを感じている指導者が多いと考えられる。

## 羽島市の事業実践の成果と課題、今後の見通し

### ○成果について

#### ・運動部活動の地域移行（クラブ化）に関して

令和3年4月より、計画通りに運動部活動12部活を、全てはしまなごみSCでのクラブ活動として実施することができた。指導者についても、これまでの社会人指導者を活用したり、羽島市スポーツ協会等の団体に協力を依頼したりして、全てのクラブに教員以外の指導者を配置し、活動を実施することができた。

1・2年生ともに、生徒は休日の活動には充実感を感じて取り組んでおり、体力の向上とともに、仲間づくり・絆づくりにもつながっている。学校での部活動と同様の教育的効果が得られていると考えられる。

また、2年生は昨年度の部活動と比較して、今年度のクラブ活動について同様に活動できていると感じており、顧問から社会人指導者変わったことも受け入れられている。

生徒のみならず、1・2年生の保護者、運動部活動顧問、はしまなごみSC指導者も、クラブでの活動には満足していると半数以上が回答しており、地域移行がスムーズに実施できたと言える。

#### ・地域部活動の活動時間について

土日各3時間の充実した活動を目標として進めた。コロナ禍による活動制限（まん延防止措置や緊急事態宣言の期間）もあったため、活動制限がない4月・5月・7月・11月・12月の全クラブの実施回数を平均すると1か月あたり7.0日であった。

意識調査の結果、この活動量については生徒、保護者、指導者ともに肯定的に捉えていることが明らかとなった。生徒・保護者のニーズも、月6～8日に集中しており、ニーズに応える活動量が確保できていると言える。

#### ・部活動顧問の時間外勤務の削減、働き方改革について

拠点校の運動部活動の顧問への調査により、平均して月13.3時間の時間外勤務の削減につなげることができた。また、アンケートでは休日に部活動指導で出勤する必要がなくなったことを非常に肯定的に捉える意見が多くあった。

竹鼻中学校の実践を通して、全ての運動部活動顧問が、地域部活動を他の地

域・学校に推進したほうが良いと回答している。その理由として、教員の負担軽減につながることや、本来の教員の役割に注力できることなどを挙げている。

本事業によって、運動部活動顧問の時間外勤務の削減ができ、働き方改革を進めることにつながったと言える。

・保護者の費用負担について

はしまなごみスポーツクラブに支払う年会費・参加料については、半数以上の保護者が適正であると答えており、現在の保護者の費用負担について、保護者の理解も得られていると言える。

## ○課題について

### ・地域部活動を担う望ましい指導者の育成

年度途中で指導者が交代するクラブがあり、指導体制が不安定になるときがあった。地域部活動を進めるにあたり、単に指導者を確保するにとどまらず、教育的な配慮を踏まえた指導が行える指導者へと育成するための研修を実施していく必要があると考えている。

今年度は教育的配慮の観点として、指導者研修ではスポーツハラスメント・体罰について取り上げたが、来年度は個に応じた指導という面から発達障害などの研修を実施したいと考えている。

### ・部活動顧問とクラブ指導者や保護者との連携について

部活動顧問とクラブ指導者が連携できているという調査に、顧問は90%ができていると回答したのに対し、クラブ指導者は67%にとどまっている。また、保護者のアンケートからも、顧問の関わりを求める意見が多く挙げられていた。

クラブ化により、顧問が休日の活動の際に、直接生徒を指導しなくてもよい体制づくりができた。一方で、一部の部活動顧問が、指導を担うクラブ指導者や運営に携わる保護者との情報交換や活動方針の確認などについて、消極的な面があることが課題として浮き彫りになっている。

どの程度、どのように関わっていくべきか、適切な連携の在り方について検討していく必要がある。

### ・保護者負担（当番・費用）の在り方について

意識調査の結果では、当番活動など、運営に関する保護者負担は適切であるという回答が多かったが、運営面での負担を削減することを目標に定めていたため、さらに改善を進める必要がある。保護者当番を減らしたり、なくしたりしているクラブがあるため、そのクラブの実施状況や緊急時対応の体制などを確認し、他のクラブにも適用できるかを検討するなど、クラブ横断的に情報交換する場を設定しなければならないと考えている。

また、費用面の負担については、半数以上の保護者が現状の金額が適切であると回答している。しかし、クラブごとに徴収しているクラブ費の金額に差があることや、指導者謝金の増額の財源、クラブ加入生徒の減少の可能性など、保護者の費用負担に関わる課題は多い。持続可能なクラブ運営の点から、適正な保護者

負担額を、当事者である保護者も交えて協議できる場を設定する必要があると考えている。

・指導者謝金の適正化およびクラブ運営費の財源について

現在、指導者へは指導時間によらず、1回1,000円の謝金を支払うこととしている。しかし、指導者の58%、保護者の30%が、この金額を少ないと感じている。

指導者謝金は、保護者が負担しているはしまなごみSCへの年会費・参加料から支払うこととしているため、増額をするためには年会費・参加料も増額しなければならないが、保護者の負担を増やすことは容易ではない。

地域移行の受入れ先となる、本事業でのしまなごみSCのような団体に対して、団体の運営費や指導者の謝金に支出できるような財源の確保をしていかなければならないと考えている。

## ○来年度の竹鼻中学校・はしまなごみ SC での実践の見通し

### ・クラブ活動体験会の実施

今年度、コロナ禍により実施できなかったが、2月～3月に4月に入学予定の小学6年生を対象として、クラブ活動体験会を実施する計画を進めていた。来年度の実施に向けて、準備を進めていく。

これにより、入学前から各種目に触れることができ、よりよい種目選択につながれると考えている。

### ・指導者の確保と研修会の充実

岐阜県スポーツ協会、羽島市スポーツ協会の加盟している協会・連盟や近隣大学、民間のスポーツクラブと連携して指導者の確保をする。

クラブ指導者が教育的配慮を踏まえた指導を行えるようになるために、自閉症スペクトラム等の専門的知識を研修できるようにしていく。

### ・部活動顧問、クラブ指導者、保護者との連携について

クラブ部活動引き継ぎ用紙だけでなく、定期的に連絡を取り合い現状の交流をできる場・時間を設定するなど、有機的なつながりのある連携の在り方を模索する。

### ・スポーツクラブと中学校での合同説明会の実施（年1回程度）

夏の中体連の後、3年生の多くが引退することに伴い、保護者役員が交代する。引継ぎを円滑に行うため、夏休みの期間に学校とはしまなごみ SC が合同で新役員（保護者）に説明会を実施する。

### ・学校での部活動の在り方の変容

休日の部活動がクラブ活動へと地域移行することに伴い、学校で行う平日の部活動の活動時間の確保や、学校部活動での指導の方向性について検討する。